



奈良県農業研究開発センター ニュース

2018

6

vol.154

薬用作物ヤマトトウキの株幅を基準とした生育指標の開発

～奈良にゆかりのある薬草栽培の普及を目指して～

薬用作物ヤマトトウキについて、容易に計測できる株幅を生育の指標とする方法を検討しました。その結果、株幅が大きくなるほど根の収量も大きくなることから、生育指標として有効と考えられました。また、株あたり 100g の乾燥根収量を得るためには、8 月時点で株幅 55cm 以上が目標となると考えられました。

1. 背景と目的

ヤマトトウキは代表的な薬用作物のひとつで、乾燥させた根は「当帰」と呼ばれ（図 1）、生薬として様々な漢方薬に配合されています。県産の物は「大和物」として古くから珍重されてきましたが、生産者の高齢化などによって生産量が少なくなっていました。ところが近年、漢方薬の人気が高まり、生産拡大が求められています。このため、県では再興に取り組んでいます。

一方、初めてヤマトトウキを栽培する生産者には、適当な生育指標が無いと、生育が順調であるか判断しにくいことが課題でした。そこで、特別な器具や訓練を必要とせず、容易に計測できる株幅を指標とすることで、生育の良否を判断する方法について検討しました。



図 1 生育盛期のヤマトトウキ（左）と乾燥した根（右）

2. 研究成果の概要

127 株を 4 月に定植し、生育期間のちょうど中間にあたる 8 月に株幅を測定しました。なお

株幅は、株を真上から見て、生長点（葉が新しく発生してきている部分）を通る葉の最大分布幅としました（図 2）。また、12 月には根を掘り上げ、湯もみと乾燥を行ったのちに収量を測定しました。

その結果、株幅が大きくなるに従って、乾燥根の収量も大きくなる傾向があり、生育指標として活用できると考えられました。また、良い収量の基準となる株あたり 100g の乾燥根収量を得るためには、8 月時点でおおむね 55cm 以上の株幅であることが目標となると考えられました（図 3）。

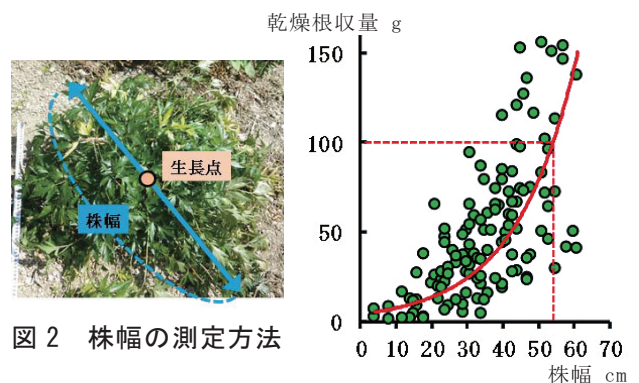


図 2 株幅の測定方法

図 3 株幅と乾燥根収量の関係

3. 実用化に向けた対応

生育指標としての普及を図るとともに、県内の様々な場所でデータを蓄積し、さらに精度を高めていきたいと考えています。

（果樹・薬草研究センター 米田健一）